

令和 6 年度 全国学力学習状況調査からわかる 本校の傾向と課題について

羽曳野市立 白鳥小学校

【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【国語】

本校の国語における平均正答率は、全国をわずかに上回る結果となりました。

その中でも、課題があるのが¹設問 1 の「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題でした。

話し合い活動の際に、伝える内容を明確にしたり、伝えたい内容を整理したりすることなどは、今後の話し合い活動にもいかしていけると思います。

また、³設問 2（1）の「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」問題でも誤答が多くありました。

登場人物の相互関係や心情などを捉えるために、本文の描写に着目しながら読み進めていくことが大切だと言えます。

記述式問題については、2 問ある中で全国平均をわずかに上回りました。これまで記述式問題に課題があったのですが、日常の授業より、「書くこと」に重点を置いてきた結果、子どもたちも書くことに抵抗なく、設問に正対した答えを書くことができていたと言えます。無解答率の低さにもそれが表れています。発達段階に応じた系統性を持たせ「書くこと」を大切にしてきた授業づくりの成果が感じられる結果となりました。

今後も基礎・基本を大切にした授業づくりをはじめ、「書くこと」をベースに自分の考えをまとめ、まとめたことを話し合う、伝え合う授業づくりをめざしていきます。

【算数】

本校の算数における平均正答率は、全国よりもわずかに上回る結果となりました。

その中でも、課題があったのが、**1**設問（1）で「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」問題でした。

落ち着いて考えればできた問題かもしれませんが、問題を読み、「少ない」という言葉から形式的に減法を用いてしまった可能性があります。問題場面を図に表し、図を基にして式に表すことができるようにすることも大切であると感じます。

算数の全体的な傾向として、「知識・技能」の観点よりも、「思考・判断・表現」の観点の問題の方が正答率が高い傾向がありました。問題文を読み、答えの求め方や理由などを書いたりする力（思・判・表）はありますが、「計算をする」や「グラフを読み取る」（知・技）などの基礎的な部分に課題が見られる傾向となりました。

この学力調査の結果がすべてを表すわけではありませんが、傾向にもありましたように、改めて基礎・基本の学びを大切にするとともに、授業では例えば、ただ公式等の暗記に終始するのではなく、その公式等の意味や性質を理解し活用できるようにすることなども大切にしていきます。

【児童質問紙と各教科から】

○毎日朝ご飯を食べている・・・よくあてはまる 75.5%

この項目で、「よくあてはまる」と回答した児童の各教科の正答率が高い傾向がありました。

○毎日同じ時間に寝ていますか・・・よくあてはまる 30.6%

どちらかといえばあてはまる 57.1%

約 87%の児童が寝る時刻を決めて睡眠をとっているという結果でした。この項目で、「あてはまる」と回答した児童の各教科の正答率が高い傾向がありました。

○自分にはよいところがあると思いますか・・・よくあてはまる 55.1%

どちらかといえばあてはまる 28.6%

この項目で、「あてはまる」と回答した児童の各教科の正答率が高い傾向がありました。

○自宅には本がどれくらいありますか（教科書は除く）

本の冊数が増えるにしたがって、正答率が上がる傾向がみられました。

以上の結果を踏まえ、今後の各教育活動にいかしていくとともに、引き続き、朝読等、本に慣れ親しむ活動を続けていきたいと思います。また、子どもたちに規則正しく生活することや、自他を受け入れ、さらに自分のよいところを伸ばしながら成長していける授業づくり、集団づくり等を大切にしていきたいと思います。